

10月10日(水) 本年度第14回(通算2653回)12時30分～ 釧路商業高等学校

『就職指導講演会』

担当/職業奉仕委員会

☆お客様

- | |
|---|
| ・北海道釧路商業高等学校校長 新山俊彦様 |
| ・野村証券株式会社釧路支店 支店長兼とちか帯広営業所長 岡田拓様 |
| ・野村証券株式会社釧路支店 フィナンシャルコンサルティング課 中村理恵子様、松野友香様 |

☆出席報告【会員総数62名 免除7名 出席計算に用いた会員数62名】

本日の出席者 30名 48.4%

☆ニコニコ献金

- ・高橋 貢君～ 就職指導講演会よろしくお祈いします。
- ・小林 裕幸君～ 本日もよろしくお祈いします。
- ・富樫 孝之君～ 51歳になりました。
- ・坂入 信行君～ 拓ちゃんががんばって!
- ・中村 祐昭君～ 誕生日ケーキありがとうございました。
- ・小松 亮次君～ 結婚49年よくここまでもちました。
- ・親睦家族委員会一同～ 親睦の星、岡田副委員長、講師頑張って下さい。
- ・岡田 拓君～ 今日は私の話ではなく、優秀な二人の社員の話をお祈いで下さい。
- ・平澤 利秀君～ 本日三名の講師よろしくお祈いします。

会長挨拶

☆《高橋会長》☆



皆さんこんにちは。今月10月は職業奉仕月間となっております。本日は恒例の就職指導講演会にちなんで商業高校さんの一室をお借りしての移動例会であります。30年続いた星園高校の講演会も統廃合と共に終了し、商業高校さんに替ってから早いもので8回目となりました。今回の講演会に際しましては新山校長先生はじめ進路指導の南部先生にはご配慮頂き、この場をお借りしまして感謝申しあげます。

今の子供たちは体の成長は昔から比べると早いですが心の成長が伴わないアンバランスな状態になっていると言われております。いわゆる先進国独特の現象です。バブルが崩壊し、経済が低迷している日本ではありますが、自由と飽食は加速しています。その中で生きる、すなわち社会人になる事は容易なことではないような気がします。

難しい事はさておいて、本日の演者は皆さんもご存じの我が北クラブホープのT岡田こと岡田拓先生です。野村証券釧路支店、支店長として色々な企業を見て来た岡田先生の素晴らしいお話は生徒の心をきっとつかむこと間違いないと確信しております。松野さん、中村さんも本日はよろしくお祈いいたします。

☆幹事報告☆ 《小林幹事》



- ①白糖・別海・厚岸・弟子屈の各ロータリークラブより10月例会プログラムが届いております。
- ②厚岸・弟子屈の各ロータリークラブより会報が届いております。
- ③葎本ガバナーエレクト業務開始・事務所開設の案内が届いております開設日が10月1日、所在地は釧路市住之江町8-7 すみのえ東陽ビル2階となっております。
- ④10月24日の藤川享胤先生を招いての職業奉仕講演例会ですが例会・例会終了後の懇親会の案内を皆様にFAXにて送信しております。返信期限10月12日金曜日となっておりますので、まだ返信されていない会員の方がおりましたらお早めに返信の方をお祈いいたします。

北海道釧路商業高等学校就職指導講演会

いま 「社会人になる前に 現在しておくべきこと」

岡田 拓 氏

野村証券株式会社 釧路支店
支店長兼とち帯広営業所長



皆さんこんにちは。

私は野村証券という会社で釧路支店の支店長をしています岡田と申します。

先日、私が所属している釧路北ロータリークラブというクラブの偉い人から釧路商業高校で就職、職業講演会をして欲しいという依頼を受けました。私のような者が皆さんにお話をするのが適切かどうか大変疑問なのですが、頼まれたら断らないというクラブの不文律がありましてこうしてお話することになりました。大学生向けの就職セミナーは良くやるのですが、これだけたくさんの高校生を前にしてお話しするのは始めてです。高校生にはどんな話が適当で受けるのか正直わかりませんが、ここにいらっしゃる殆どの方が高校卒業後社会人

になると聞いています。社会人の一先輩として少しでも参考になる話ができればとは思っています。

「おっさんが偉そうに何か言っているわ」程度に気楽に聞いていただければ幸いです。

話があちこち行って聞きづらかったり、つまらなかつたりすると思います。不慣れなのだとご容赦頂きお付き合い下さい。まずは自己紹介と、私が働いている野村証券という会社がどういう会社かという簡単な紹介をさせて頂き、表題にあります「社会人になる前にいま何をすべきか」というテーマについて私なりの考えをお話します。私が皆様と同世代のときにどういう学生生活を送っていたのか、今の会社に入社し、どういう社会人生活を送って今の立場にいて今振り返ってみるとこういうことが大事なのではないかという話をさせて頂きます。釧路商業高校の先生方が期待するような内容にはならないかも知れませんが時間にして30分～40分程度の予定でお話します。宜しくお願い致します。

繰り返しになりますが私は野村証券釧路支店で支店長をしております、岡田拓と申します。だいたい年より老けて見られますが1972年生まれの39歳です。出身は東京の杉並区という所で、丁度東京都の真ん中辺に位置する住宅街です。そこで18歳まで過ごし、1年浪人した後京都にある京都産業大学という大学に入学しました。卒業後野村証券に入社し大阪の梅田支店を皮切りに倉敷支店、名古屋駅前支店、神戸支店を経まして現在の釧路支店の支店長になるまで16年間ずっと営業をしてきました。私が働く野村証券ですがグループ全体で約2万7000名、70ヶ国以上の国籍の人間が働いています。

世界中に拠点がありますが、日本国内では約170箇所に支店、営業所があり私は今年の4月から釧路支店長と帯広にあるとち帯広営業所の営業所長を兼務しています。と偉そうに経歴を紹介させて頂きましたが私がどれだけいい加減な人生を歩んで今の立場にいるのかということ私の学生時代の話を中心にお話します。

私が学生時代にやっていたことは小学校から中学まで競泳、高校はラグビー、大学時代はスキューバダイビングをやっていました。勉強は殆どしていません。それ以外に夢中になったのが麻雀とパチンコです。結局何を申し上げたいかという皆様が社会人になる前にしなければいけないことはしっかり青春を謳歌して欲しいということです。スポーツや勉強に夢中になったり、趣味に没頭したり、人によっては海外に留学したり、くだらないことに時間を費やしたり、思いっきり自堕落な生活をしてみたり、学生の間にはしか出来ないことは山ほどあります。就職する、社会人になると物理的に出来ないこと、立場的に出来ないことがたくさんあります。いやでも勉強しますし、特殊な職業じゃなければ学校で学んだことより社会人になってから学ぶことの方が圧倒的に多いです。社会に出れば学歴、学校での成績は何の役にも立ちません。実力、人間力が勝負です。人生に無駄なことは何一つありません。失敗したなと思ったことがある日ビックリするようなタイミングで役にたったりするものなのです。皆さんが有意義に高校生活を謳歌することが人間の幅をつくり社会人として仕事をしていく上で役に立ちます。まずは悔いのない高校生活を送ることが一番大事だと思います。



野村證券株式会社釧路支店
フィナンシャルコンサルティング課

松野 友香氏

はじめまして。

野村證券釧路支店の松野友香と申します。

ファイナンシャル・コンサルティング課という「営業」をする部署に所属しています。金融機関で「営業」と聞くと、女性だと店頭でご来店されたお客様の対応をしているイメージが強いかと思いますが、私は、どちらかと言うと自らお客様の所に訪問して、資産運用についてのご相談や、ご提案をする仕事をしています。私は、平成23年に入社致しまして、2年目になります。ですので、割と皆さんと近い立場でお話が出来るのではないかと考えております。本日はよろしくお願ひします。

今回、「就職」がテーマということですので、今日は大きく分けて3つお話させていただきます。まず一つ目に、入社前のお話として「私の就職活動時代」について、次に、実際就職して「入社後に感じたこと」について、最後に、社会人と言う立場から「今のうちに皆さんがしておいた方がいいことや、考えるべき事」についてお話させていただければと思っています。

では、まず「私の就職活動時代」についてお話したいと思います。私が就職活動をしていた2年前は、大学卒業の就職率が約6割と言われていましたので、よく周囲から「就職氷河期だから大変だね」と言われていました。しかし、特に実感していたわけでは無いですし、何でそんなに言われるのだろうと疑問すら感じていたのを覚えています。もちろん、決して就職活動を始めてすぐに内定が出たわけではなく、数え切れないほどの企業に書類を送り、面接も数多く受けました。

就職活動をしていると、そんな簡単に上手くいくわけもなく、落ち込むことも多々ありました。選考に落ちてばかりいると、自分自身を否定された感覚に陥ってしまうこともありました。しかし、今改めて思うことは「落とされることは悪いことではない」ということです。もちろん、基本的な話し方、姿勢、立ち振る舞いが原因で落ちてしまったケースも中にはあると思いますが、単純に「私と相手の企業とでは合わなかった。」ただそれだけの話だと思います。寧ろ、入社する前にわかって良かったと喜ぶべきかもしれません。

と言うのも、よく「中学・高校・大学」の卒業して入社後3年以内の離職率を「七・五・三」という言葉で表されることがあるかと思いますが、その原因は企業とのミスマッチです。入社後に、「こんなはずじゃなかった。」とのギャップを生んでしまったのだと思います。そのようなことが起こらないためにも、面接官は様々な方を採用されてきた人を見抜くプロですので、その方に「自分はうちの会社には合わない。」と判断をしていただけたことは良かったと思えるべきだと思います。もしかすると、間違っして入社して辞めることになってしまっていたかもしれないのです。

ですので、落ちてしまったことを悔やむよりも、自分と合う会社を妥協せずに是非探し出してほしいと思います。また、なぜ先ほど就職氷河期の実感が無かったと言いますと、今の環境を理由にあきらめないでほしいと思ったからです。確かに今置かれている環境について、「就職難」と言われる時代かもしれません。しかし、私たちは毎年就職活動をしているわけではありませぬので、「今年は

(例年に比べて)大変だった。」と覚ることが無いはずで、また、気にしたところで状況が変わるわけでもありませんし、変わらないのなら、今の状況を受け止めて、気にせず就職活動に励んでください。どうしても周りの友達が決まってくると、焦りの気持ちが出てしまうかと思いますが、早く決まったから偉いわけでもなんでもないですので、自分が納得するまでとことん最後の最後まであきらめないでやって欲しいと思います。

次に、実際に「入社後に感じたこと」についてお話したいと思います。まず一番に感じたことは、「入社してからがスタート」だということです。

例えば、生活環境が180度変わります。今までとは全く別の生活になりました。生活習慣で言いますと、(私が早すぎるのかも知れませんが)朝5時に起きて夜遅くとも22時過ぎには寝ます。他にも、朝起きてすぐに(全く読み慣れていない)日経新聞を読むことから始まり、業務に関してもわからないことだらけでした。寧ろ、わからないことしかないと言っても過言ではないと思います。もちろん金融業ですので、経済に関する知識も必要で、いくら大学が経済学部だったからとはいえ毎日が勉強でした。毎日ははてなマークのつく生活で、「わからないので覚え、勉強する」という日々でした。

ですので、驚かすつもりではありませんが、就職が決まったから「もう大丈夫だ」と安心してしまうのはまだ早いと思います。私自身振り返ってみると、やる気もありましたが、当時内定が出て、実際に少し安心してしまっていたため、そのように感じたのかも知れません。

就職はゴールではありません。ここからが始まりです。就職が決まってから実際に入社する前に考えるべきことは、「よし!がんばるぞ!勉強でも何でも来い!」という「やる気」「気持ち」「心構え」の方が何倍も大切だと思います。「就職がゴール」ではないです。就職・入社してからが本当の始まりだと思います。

ただ、このようなお話をすると、入社後は大変だというイメージになってしまうかと思いますが、それだけではありません。実際に働き始めて1年が経ってみて、まず業務的・知識的が身につくということは、当たり前だと思います。また、社会に出ると様々な年齢層・考え方の人と話す機会が増えますので、どのように話したらより伝わりやすいのかを考えてお話すことで、当たり前なことかもしれませんが「物事の捉え方、考え方」が学生時代とは比べ物にならない程変わってきます。この点は、変わったというより成長した点になるかと思いますが、日々人生の先輩方とお話を伺えることはとても刺激的であり大変勉強になります。そのような機会を得られるのも、社会人ならではかもしれません。

以上、これまでお話してきたこととをふまえますと、今のうちに身に付けておくべき資格等は、正直、あまり無いかと思いますが、もちろんその会社や業界によって全てとは言い切れませんが、基本的には入社してから身につければいいと思います。ただし、そのためのやる気、気持ちだけは忘れないでほしいと思います。

とは言っても、本当に何もしていないでいると、気持ちだけではそもそも入社すること自体が危うくなってしまいますので、今皆さんが準備しておくべきことを一つだけお伝えしたいと思います。それは、自分自身についてもっと知ってほしいということです。

就職するためには、まずその企業の選考を受けなければなりません。受けるためには、なぜ入りたいかの理由(志望理由)があると思います。では、なぜそう思ったのか。自分が過去にこういった経験をしたためこうに思い志望したという理由があると思います。

就職活動は自分のことを考える、またと無い機会だと思います。業界研究や選考を受ける会社のことを調べることはもちろん前提条件として必要なことだと思います。それに加えて、もっと自分のことを知ってください。考えてください。自分は生まれてから、こんなことがあって、その時にこう思ってどのような判断・行動をしたのか。ノートに書き出してみてもいいと思います。私自身も、就職活動をしていた時に、自己分析として書き出してみました。自分とはどういう人間なのか、どのようなキャラクターなのか知ること、これから生活していく上で知っているのと知らないのとでは変わってくると思います。また、知ること、面接時に「自分がこういう人間だ」とより明確に伝えることができると思います。逆に言うと、面接官としても明確に伝えてもらうことで(選考結果は別として)印象に残りやすくなると思います。是非、これから就職活動をしていく上で自分のことをもっと考えて見てください。自分のことを知ってほしいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



野村證券株式会社釧路支店
ファイナンシャルコンサルティング課

中村 理恵子 氏

皆様、こんにちは。

同じく、野村證券釧路支店の中村理恵子と申します。

先ほどお話しさせていただいた、松野由香と同じく、ファイナンシャルコンサルティング課で営業をしております。入社して現在6年目になります。よろしくお願ひします。

私は、入社してから少し時間もたっていますので、入社してからのお話しを3つ、させていただきたいと思います。1つ目に、社会人になってからの生活、2つめに、学生の頃と社会人になってからの意識や考え方の変化、3つ目に、一緒に仕事をしたいと思う人、についてお話しをしたいと思います。

まず1つ目の「社会人になってからの生活」。私のある1日のタイムスケジュールについてご紹介します。

- 6:00 起床、準備
- 7:00 出社、日経新聞や朝のニュースを会社で確認
今日お会いするお客様にお持ちする資料などの作成
- 8:30 会議
- 9:00 会社出発・車で移動
- 10:00 お客様へ提案。
- 11:30 お二人のお客様とお話し、提案。
- 12:15 昼食
- 13:00 13:00から30分間お客様とお話し、提案
- 14:00 帰社。会社からお客様に電話外交
- 15:30 会社出発・車で移動し、16:00から1時間お客様とお話し、提案
- 17:30 帰社。釧路にお越しにいたっていた本社の方と面談
- 17:50 今日1日の内容の再確認と、事務処理、明日の予定の確認
- 18:00 解散。
- 18:30 帰宅。夕食など
- 22:30 就寝

先ほどお話しをした松野と私も同じで、社会人としての生活は学生時代と比べて一変します。

また、仕事をするために体力や体調に気を使うようになります。

いまお話しした1日のタイムスケジュールはほんの1例ですが、例えば朝8時から夜19時過ぎまで釧路市以外の遠方のお客様のところへ丸1日外に営業に出ている日もあれば、ほとんどの時間を会社での電話営業で沢山の方とお話しする日になることもあります。

それは、あくまでも会社の先輩や上司から言われてやっていることではなく、自分で考えてやっていることです。自分が会社で働くなかで持っている目標や課題に向けてすべき行動を日々、毎週、毎月と色々な目線で考えたうえで行動しています。もちろん自分のためですが、自分のためだけではなく、相手のことを常に考えて生活をするようになりました。

ここで、2つめの「学生の頃と社会人になってからの意識や考え方の変化」についてお話しします。社会人としてわたしが大きく変わったこと。それは「自分優先」から「相手優先」にか変わったこと。そして、「他から何か与えられる生活」から「自分で考えて、決めて、行動し、振り返る生活」に変わったことです。

たとえば、例をあげてみましょう。

◆体調を崩してしまった場合

まずみなさんは、早く治すためにお休みをもらって、お休みした間の授業や、あったことはクラスのみんなや先生に聞いたりしていると思います。「早く治そう」、「お休みをもらう」ことは、もちろん今の私の生活でも変わりません。ですが、例えば体調を崩してしまったら私の場合どうなるのか。その日にお会いしたいとお約束していたお客様に、謝罪をして別の日にしてもらわなければいけません。お客様には、同じように働いている方や、主婦の方、年配の方がいらっしゃいます。

私から、お客様の生活の時間をもらってお話しをするのに、いきなり予定がずれてしまうとお客様に迷惑をかけてしまいますよね。自分あてにかかってきた電話が、私がないことでお客様のお悩みにすぐにお答えできないことがあります。自分が居ればできることを、他の同僚や先輩、後輩にお願いしなければいけません。そうすると、わたしが休むことでみんなに迷惑をかけてしまいます。

たとえば、アルバイトをされているかたも皆さんの中にいらっしゃるんじゃないかと思いますが、急な欠勤だと代わりの人をお願いしなければならないことがあるのではないのでしょうか。

会社に入って、自分の都合で考えて生活をする、一緒に働いているみんなや、担当させてもらっているお客様への迷惑になってしまいます。

「相手の目線で考える」

わたしが社会人になって、一番かわったところです。もちろん、いま皆さんも先生や先輩、後輩、友人など、相手のために行動したりすることがあると思います。ですが、いまの生活よりももっと、自分よりも相手の目線で行動することが多くなります。

たとえば、お客様にとってどんなお話しをすると、お役にたつことができるのか。お客様のお役に立つために、お話しをしたいが、お客様に何時に、どれくらいの時間で、どんな資料を持っていけばご理解いただくことができるのか。

また、会社の中では、私がどんなことができると貢献することができるのか。自立した行動ができるか、そしてその行動は会社にとって、社会生活にとって正しいといえるものかどうか。社会人として働くと、「好きなものだけ選ぶ生活」ではなく、「好き嫌い問わず、沢山のものを吸収する生活」にかわります。だからといって、すぐに変えられるわけではないと思いますし、私も時間はかかりました。学生として、これから皆さんが社会にでていくために、最後に私から、3つ目の「一緒に仕事をしたい人」についてお話しして終わりたいと思います。

私は、去年・今年と、採用面談の担当をさせてもらっています。そこで、私が一緒に働きたいと思う人はこんな方でした。

しっかりと目を見て話す人

- ・言葉がうまくなくても、自分の良さを必死に伝えようとしてくれる人
- ・素直な人
- ・成功や失敗に関係なく何かを必死に頑張ったことがある人
- ・自分がどれだけの気持ちでその会社に入りたいのか、自分は絶対役にたつ人間だという自信を見つけてほしいです。

最後に、少しでも私からのお話しで学ぶところがあったり、考えてみようと思ってもらえたなら、うれしいです。長くなりましたが、これで私からのお話しを終わりたいとおもいます。ご清聴ありがとうございました。